



明治二年度家祿請取不足米下附之請願



4429

114  
A 2104



明治二年度家祿請取不足米下附之請願

舊秋田藩主佐竹義堯明治二年三月版籍奉還ヲ  
出願同年六月聽許セラル故ニ旧秋田藩君臣共  
ニ一般王臣トナレリ而シテ大政府ハ版籍奉還  
聽許ト同時ニ佐竹義堯ヲ藩知事ニ任シ地方行  
政ヲ一任シ共ニ旧藩臣ノ給祿改革ニ適宜執行  
セラル可キ旨ヲ達セラル故ニ藩知事ハ其趣旨  
ニ遵ヒ旧藩臣即チ士族ニ之ヲ傳達シ大参事ハ  
藩知事ノ命ヲ奉レ其執行方法トシテ從來ノ給  
祿ヲ引上ゲ更ニ御藏出米ヲ以テ給與セラルヘ  
キ祿高ヲ改定シ明治三年十月ヨリ實行スベキ  
旨ヲ達セラレタリ

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

然ルニ明治二年度ハ既ニ版籍ヲ奉還レ一般王  
臣ト爲リタルニモ拘ハラズ給祿高ニ就キ何等  
ノ處分モ無之ニ付無論元祿ヲ給與セラル、嘗  
ナリ殊ニ明治二年十二月二日中下大夫士以下  
ニ對スル布告ノ趣旨ニ依ルモ中下大夫士以下  
ハ各藩改革ノ制度ニ做フテ實行セラレタルニ  
其給祿方法ハ元祿ハ現今被宛行候高ヲ以テ定  
メ且ツ祿制當年ハ是レ迄ノ通來春ヨリ可減事  
ト有之ナリ依之觀之モ改定給祿ハ一般ニ明治  
三年度ヨリ實行シ明治二年度分ハ元祿給與相  
成ルベキハ更ニ疑ノアラサル所ナリ  
明治二年度分ハ斯ク元祿ヲ給與セラル可キ筈

ナルニ旧秋田藩士族ノ家祿米給與額ハ其全額  
ノ十分ノ四ヲ下付シ十分ノ六ハ藩廳ノ公費ニ  
支消セラレタリ是當時維新ノ大改革ニ際シ兵  
亂後國事多端百事錯雜混淆ノ折柄ニシテ藩廳  
モ其錯誤ヲ知覺セズ士族モ亦何等ノ心付キ無  
之爲メ不知不識ノ間ニ斯ク實行シ終ラレタル  
モノナリ  
其後斯ク誤謬ヲ發見シタルニ付當時錯誤ヲ求  
メタル原因ヲ探究スルニ維新以前ニ於テ旧秋  
田藩君臣間ニ成立タル藩臣ヨリ藩主ニ對シ貸  
上ケテ爲スヘキ特別契約ノ版籍奉還ト同時ニ  
消滅シタルヲ心付カスレテ該契約ノ趣旨ニ依

リ旧藩臣ノ借上高ヲ控除シ之レヲ藩廳ノ公費  
ニ支消シタル次第ニシテ藩廳及ビ士族共ニ不  
知不識誤謬ノ域ニ落入りシモノナリ  
故ニ當時藩廳モ使用ノ念慮ナク旧秋田藩臣ニ  
於テモ貸上ゲノ意志ナカリシニ不知不識ノ間  
ニ控除セラレタルハ全ク錯誤ノ結果ニシテ藩  
債ニ擬スヘキモノニアラス然ルニ明治四年藩  
債取調ノ公布マルニ際シ即チ一種ノ用達金ト  
見做シ明治五年一月中秋田縣廳ニ對シ下付方  
ノ儀ヲ出願セシニ債券ナキ貸借ハ取調ニ及ビ  
難キ旨ヲ以テ却下セラレタリハ善哉  
然レモ旧秋田藩臣ニ給與セラレルベキ所ノ祿高

ヲ故ナク藩廳ノ公費ニ支消シタル事實ハ歴然  
トシテ掩フベカラズ殊ニ其請求ノ理アルハ深  
ク信スル所ナレハ其後屢縣廳ニ陳情シ或ハ大  
藏省ニ出願其願書ヲ奉呈スルコト殆ント十餘  
回其都度常ニ願意ヲ排斥セララル、ノミニシテ  
更ニ其要領ヲ得ザリキ然ルニ明治廿三年十月  
中秋田縣廳ニ為シタル請願ニ對シ(請願ノ趣キ  
ハ明治二年ニ於テハ旧來ノ慣例ニ依リ取立タ  
ルモノニシテ其當時ニ在リテハ祿制ノコトハ  
藩廳ノ適宜處分ニ任シタルモノニ付詮議ニ及  
ビ難シ)トノ指令ヲ得タリ  
元來旧藩臣ニ於テモ祿制々定ノコトハ藩廳ノ

適宜處分ニ任セラレタルハ承認スル所ナルモ  
旧秋田藩廳カ旧藩臣ノ祿制ヲ制定セラレタル  
ハ明治二年十二月ニシテ其實行ハ明治三年十  
月以後ナリ殊ニ明治二年度分ノ給與高ニ付何  
等ノ處分ナキハ既ニ前段ニ縷述シタルカ如シ  
尚ホ該指令ハ旧來ノ慣例ニ依リ取立タリトア  
ルモ其慣例トハ佐竹義堯故籍奉還以前ト同一  
ニ取扱ヒタリトノ趣意ニシテ其錯誤ナルコト  
ハ前ニ詳述シタルカ如クナルニモ拘ラス當時  
尚ホ秋田縣廳ハ其錯誤ヲ知覺セザリシガ爲メ  
斯ク不當ノ指令ヲ與ヘラレタルモノナラン  
以上縷陳スル如キ事實ナレハ彼ノ租税ニ於テ

ル過徵誤納ト同性質ニシテ故ナク國庫ヲ富マ  
スベキモノニアラサレハ其事實ノ發見ト同時  
ニ政府ハ之レヲ償却スベキノ義務ヲ負ヒ從テ  
旧秋田藩臣ハ當然之レカ下付ヲ要求スルノ權  
利アリ  
假リニ之レヲ純然タル藩債ナリトスルモ政府  
ハ償却ノ義務ヲ免カルヘキモノニアラス何ト  
ナレハ藩債申出ノ期限内即チ明治五年一月ニ  
於テ之レカ下付ヲ要求セリ最モ該要求ハ証書  
写勘定書等ノ添付ヲ爲サバリシモ上來縷述ス  
ル如キ事實ナルヲ以テ別ニ証書ノ存スベキモ  
ノナラズ從テ勘定書ノ調製モ必要ナラス政府

ハ前陳ノ事實ノ申出ラ受領セハ政府自ラ計算  
ヲ為サ、ルヘカラサル性質ノ金圓ナリ殊ニ証  
書寫等ノ添付ハ唯ニ手續上ノ事ニシテ敢テ權  
利ノ消長ニ關係セサルナリ尚ホ且ツ明治八年  
十月廿七日第百五十九號布告ニ依ルモ其但書  
ニ(此布告到達前既ニ願出候分ハ此限ニアラス候  
事)トアリテ該布告以前ニ出願シタルモノハ總  
テ採用スベキ筈ナリ而シテ本件ハ既ニ明治五  
年一月ニ於テ出願シタルバ其手續ノ如何ニ拘  
ラズ之レカ要求權利ノ存在スルハ實ニ明瞭ナ  
ル所ナリトス

以上縷述ノ如ク錯誤ノ發見ト同時ニ下付セラ



ルベキ筈ナルモ假リニ數歩ヲ譲リ藩債ナリト  
スルモ既ニ出願ノ手續ヲ盡シマリテ當然下付  
セラルベキニ今日ニ至ル迄其事情ノ貫徹セサ  
ルカ為メ故ナク國庫ノ財中ニ混入シ旧秋田藩  
士族一同ハ為メニ大ニ困難ヲ極メ殆ント生  
活ニ差支ユルモノモ有之程ノ境遇ニ有之候間  
事情御洞察ノ上別紙計算書ヲ通り至急御下附  
被成下度此段奉請願候也

明治廿六年六月廿六日

秋田縣羽後國秋田市古  
川堀端町三番地士族  
總代人 小野岡義禮

全縣全國全市手形掘端  
町四番地士族

全 岡 本 元 賢

全縣全國全市町八番  
地士族

全 澁 江 睦 光

全縣全國全市長野町二  
番地士族

全 安 東 半 助

全縣全國全市土手答地  
町六番地士族

全 伊 藤 保 吉



全縣全國全市土手答地  
町十番地士族

全 山 方 克 巳

全縣全國全市龜ノ町西  
土手町廿三番地士族

全 平 澤 常 弘

全縣全國全市築地下本  
町十三番地士族

全 大 野 光 緝

全縣全國全市中龜ノ町  
上丁十九番地士族

全 井 口 下 紀

全縣全國公市龜ノ丁庸

口堀及新町三番地士族

全 高 畑文之助

全縣全國公市保戸野愛

宕町二番地士族

全 片 岡理一

全縣全國公市中長町五

番地士族

全 守 屋伴男

東京市芝區神明町廿五

番地士族

全 梅 津圭藏

秋田縣羽後國秋田市上

長町三番地士族

全 山 田 德藏

全縣全國公市中長町四

番地士族

全 田 口 耕三

大藏大臣渡邊國武殿





